

日程:2011年7月22～30日

場所:チェコ共和国、Kuncice pod Ondrejnikem

参加国:15カ国

参加選手数:84人

日本チーム:チームリーダー:岡 芳樹

選手:山谷 武繁、岡 芳樹、横井 清順、古賀 光晴、川村 眞、東武 瑞穂、茂呂 可寿美

7月19日

大会会場に近い(走行距離約300km)、オーストリアのウィーン空港で、スペインの世界選手権から向かった岡と日本から到着した、山谷、横井、川村、東武、茂呂の各選手と23:00に落合い、オーガナイザーが差し向けていた車に乗り込み一路、クンチチェヘ。夜中の2時を回ったところに宿舎に到着。数日前に現地に入っていた古賀選手と合流。明日からのチェコ・オープンに備え早々に就寝。

7月20日

さっそく、今朝肩慣らしを兼ねてチェコ・オープンにエントリーする。レジストレーションは、のんびりムード。天気予報は、午前中雨、午後には雨も上がる予報。レジストレーション時は曇り空でしたが、時間がたつと雷も鳴りだし、雨がやって来た。午後3時までウエイティング。雨はやみましたが、テイクオフがガスの中。粘りに粘って、6時にはガスも上がり、タスク開始のため、選手は上がり始める。日没は夜の9時ころなので、この時間からでも十分1ラウンドはこなせそう。しばらく強風でウエイティングののち、ダミーがフライト。問題なしとなり、競技がスタート。始めのころは、サーマルもでて、少しトリッキーなコンディション。チェコのトマスもショートする羽目に。その後、サーマルはなくなるが、強風で、なかなか前に出られない条件が続く。長旅の疲れか、日本チームは実力の出せない選手が多い結果となった。明日には挽回しないと格好がつかない。チェコ・オープンには、名だたる選手が数えるほどしか参加しておらず、少し拍子抜けだが、試合の感覚が薄れてしまっているチームメンバーとしては、世界選手権に向けて、良いトレーニングとなる。宿舎は、コテージでチーム全員が一つ屋根の下で過ごすことができる。非常に快適だ。キッチン設備も充実していて、その気になれば日本食も作れる。大会期間中は3食付なので、わざわざ賄いをすることはないが、こちらの食事に飽きたら、何か作るのも良いかも。今日、出された食事はとくに問題はなかった。なんとか明日もフライトできるコンディションであることを祈る！

7月21日

朝の内、弱めに降っていた雨も上がり、もしかしてと思いながら、ランディング場に集合。昨日日没終了となった、残りの10名ほどの選手を何としても飛ばせたいと思う主催者は、選手を上げようと思うが、雲底が低くテイクオフは雲の中。当然のごとくウエイティングに入る。しかし、雰囲気的には、昨日よりしっかりした、シトシト雨の感じ。夕方5時まで待って、ついにキャンセルとなる。1ラウンドも終了していないため、全く結果はなし。我々としては、全員1本飛べて、まあ、良かったと思うしかない。昨日遅く現地入りしたインドネシアチームは、エントリーはしたが、誰も1本も飛ばず終了となってしまった。明日も天気は悪い予報。練習フライトはできずに、レジストレーションするだけで終わりそう。

7月22日(DAY0)

今日は、練習とレジストレーションの日。しかし天気は朝から雨。練習フライトは全く期待できない。レジストレーションは、午後2時からなので、スーパーで必要品を買いに行く。レジストレーションに必要な書類をそろえて、2時少し前に受付場所に。日本チームは1番目だ。今年から要求事項となった、認証登録されたハーネスの使用の義務付けを甘く考えている、あるいは全く知らなさそうな国が多くいて、どのようなことになるのか。また、知らずにきた(?)中国チームは、昨年から導入されたEN966認証のヘルメットを当日購入していた。

オープニングセレモニーは、予定では、屋外で行うはずであったが、あいにくの雨模様。急きょ、ランディング場近くのレストランバーに変更し夜8時過ぎから行われた。いつもあるパレードは無く、すぐに始まった。来賓の手短な挨拶のあと、チェコの伝統ダンスの披露があり、明日からのローンチオーダーの抽選が行われ、日本チームは、15カ国中10番となった。その後ライブのミュージックが始まったが、日本チームはそこそこで引き上げ、宿舎のコテージへ。軽くミーティングをして、明日7時半と早い全体ミーティングのために就寝。

7月23日(DAY1)

大会初日。いよいよ競技が始まる。天気は良いが、風が強そう。参加強制のセーフティブリーフィングで、今大会では、規則に明記されている認証登録済みのハーネスを使うことに関して、多過ぎるパイロットが登録されていないハーネスを持ってきていることから、オーガナイザーから、この大会では、認証登録されていないハーネスでもセーフティディレクターが安全性を確認すれば使用できるようにするとのアナウンスがあった。ヘルメットに関しては、お目こぼしは無く、EN966認証登録済みのヘルメットのみが認められることが再確認された。ハーネスに関して、日本チームとしては、ルールに従ってすべきとの遺憾の表明を書類でオーガナイザーに提出した。

一方、競技の方は、風が悪いので、ウエイティングが続いた。そして午後4時のブリーフィングで、とりあえずテイクオフに上がり、条件が良くなり次第公式競技をスタートすることになる。5時過ぎにダミーを出し、様子を確認し、ついに世界選手権の1本目が開始される。始めは、空中ならびにランディングの風が強めで、かなり苦勞する展開。そうそうたるメンバー(ブルガリアのディミター、セルビアのゴランなど)もショートする状況で、中国のシェン選手はパッドをきっちり踏んできた。さすがだ。そしてわが日本チームの山谷選手は、痛恨のショート! 1000点を取ってしまった。日本チーム2番手の岡選手が飛ぶころには、空中の風は強いながらも、地表近辺の風は、かなり落ちてターゲットが狙いやすいコンディションになる。その中、岡選手はパッドスコアの2cmをたたきだす。3番手の横井選手は、惜しくもパッドを外し39cm。最近調子を上げてきている4番手の古賀選手は2cm。川村選手、東部選手、茂呂選手と続いたが、残念ながらパッドを踏むことができなかった。

第1ラウンドの成績: 山谷1000、岡2、横井39、古賀2、川村284、東武80、茂呂171。

国別ランキングは:

1位スロベニア4

2位インドネシア16

3位中国24

4位セルビア40

5位イギリス60

6位日本123

7月24日(DAY2)

大会二日目。北寄りの風が吹き込んでおり、予報も北風のため、今日は、昨日のエリアではなく、本会場の南西10kmほどにあるサブ会場に移る。ランディング場は、だだっ広い牧草地で、わずかに斜面となっている、これがどう影響するのか、注意が必要だ。テイクオフは、機体が2機やっと広げられるサイズ。しかし両脇を高い木に覆われてはいないので、メインテイクオフよりは、安心感がある。9時から、中国の1番、シェン選手からスタート。14cm。昨日1000点をたたき出したブルガリアのディミターはDCを踏み自動計測器が、ピー、ピーとランディングに鳴り響く。わが日本チームも少なくとも1回は鳴らしたい。順調に10番目の山谷選手がテイクオフしたところで、雲底が下がり、一時テイクオフは中断となる。しばらく待ったところで、雨雲が来るかもしれないとのことで、いったんメイン会場に戻ることに。そこで3回ウエイティングをした後、結局本日のフライトは終了となる。山谷選手は、2cmと本来の調子が出てきた。

7月25日(DAY3)

明け方に土砂降りであった雨も、弱まりはしたが、晴れとはならず、まずはウエイティングとなる。何回かのウエイティングののち、3時にとりあえずテイクオフに上がることに。場所は昨日同様、サブ会場。テイクオフにつくと、飛べそうな程度に強めの風が正面わずかに左から吹いている。ランディングの風も、1m/sと弱め、ポツッと雨粒が顔にかかるが、全く問題なしとのことでさっそくダミーがテイクオフ。ダミーからの報告でも問題なしとなり、ラウンド2が開始される。順調にテイクオフが進み、20番が飛んだところで、少し雨が強くなり、競技は中断。ロシアの選手が、雨の影響で上手くターゲットが狙えなかったとクレームを付けた模様。マチアスは4cm、インドネシアのユダが、ゼロcmを出した。各選手は思ったより高度が下がらず、前回世界先選手権で2位となったワンは、高度を落とせずに、オーバーし、挙句の果てにフォールとなってしまった。しばらくテイクオフでウエイティングを続けたが、コンディションは好天せず、残念ながら、本日は終了となる。

7月26日(DAY4)

朝起きると、一面のガス。飛べる可能性がありそうとのことで、ウエイティングを続けるが、4時に最終的にキャンセルになる。スチュワードのヴィオレッタから、夜7時半過ぎにメインランディング場で、各国の郷土料理を各自がふるまうイベントが提案され、食材が揃わない、日本チームは、おにぎりとお漬けを作ることに。各国対抗戦で、日本は、ヘルシーフード賞を獲得した。

7月27日(DAY5)

朝一のブリーフィングで、1時間ウエイティングした後、飛べそうになるとの予報で、サブ会場に移動。しばらくテイクオフでウエイティングした後、弱いフォローが吹く中、無風を狙って、第2ラウンドの20番から競技が開始される。サーマルは出ていないので、風向・風速が変化することを除けば、割と狙いやすいコンディション。しかし、日本チームでパッドスコアを出したのは、横井選手のみで、昨日の山谷選手と2名のみで国別ランキングを上げることができなかった。

第2ラウンドの成績: 山谷2、岡48、横井5、古賀1000、川村43、東武50、茂呂1000。

第2ラウンドが終了した時点での国別ランキングは:

- 1位スロベニア 12点
- 2位インドネシア 37点
- 3位セルビア 54点
- 4位中国 63点
- 5位チェコ 177点
- 6位日本 221点

2ラウンド終了後すぐに第3ラウンドが開始されたが、あいにくテイクオフへ上がった時点で、雲が湧きだし、一時中断。その後しばらくして再開され、山谷、岡、川村、東部の4選手がパッドスコアをたたき出し、初めて日本チームとしてそれなりの点数(20点)にまとめることができた。できれば明日、第3ラウンドの飛び残した選手9人の内、茂呂選手が、さらに良いパッドスコアを出してくれると、国別ランキングが1つ上がるかもしれない。

しかし上位の選手は、パッドは当たり前。いかにひとケタ代、それも若い数値を連続して出せるかが鍵となる、非常にレベルの高い戦いをしている。

7月28日(DAY6)

8時までウエイティング後、第1便が、サブ会場へ移動。9時半過ぎに昨日残った、ところからスタート。風は弱めのサイドフォローか無風。残りの選手は、どちらかと言うと、女性が多く、かなりインターバルを取りながらのテイクオフになり、時間がかかった。12時少し前に、なんとか第3ラウンドが終了。

第3ラウンドの成績:山谷2、岡11、横井48、古賀507、川村1、東武6、茂呂442。

第3ラウンドを終了した時点での国別は:

- 1位スロベニア 26点
- 2位セルビア、中国 76点
- 4位インドネシア 112点
- 5位チェコ 198点
- 6位日本 241点

メイン会場のテイクオフの風情報も、いまいちなので、移動の時間を考慮して、このままサブ会場で第4ラウンドを続行することに。テイクオフの風が安定せず、後ろから来ない時にテイクオフする関係で休み休みにフライトが行われ、60番の選手が飛んで、風待ちしているうちに、発達した雨雲が会場に接近したため、一時中断。雨を避けてランディング近くのパブに避難。雨雲レーダーの状況から判断して、最終的に5時にキャンセルとなる。朝の晴れから想像して1ラウンドが終了できなかったことは、まことに残念。4ラウンドでは、山谷選手と横井選手がパッドスコアを出しているので、残りの3人の頑張りに期待したい。

7月29日(DAY7)

朝起きた時は、ガス。11時半まで、何回かウエイティングした後、昨日残った選手とリフライトの選手が12時から、サブ会場に移動。テイクオフの風向・風速は絶好。順調にフライトが進む。しかしランディング

は、サーマルが出始め、風向が定まらない時も。それにはまったのが川村選手。帳尻が合わず、フォローでランディングし、大きくオーバーしてしまった。続く東武選手は、ロングアプローチで攻めるが、アゲインストの風に阻まれ、アクセルを踏み込むが、ショートし、痛恨のフォールとなってしまった。チーム最後の茂呂選手は、スピードの抑えのタイミングがわずかに合わずに、ターゲットを外してしまった。

第4ラウンドの成績: 山谷1、岡100、横井9、古賀1000、川村416、東武1000、茂呂94.

第4ラウンド終了時の国別ランキングは:

1位スロベニア 48点

2位セルビア 85点

3位中国 103点

4位インドネシア 146点

5位チェコ 236点

6位日本 445点

3時前から、第5ラウンドが開始される。チームトップを走る山谷選手は、パッドを踏み9cmを出す、わずかに、ハーネスが地面につき1000点を取ってしまった。その後も順調にフライトが進んだが15番目の選手が出るころからテイクオフにサイドの風が入り始め、少しトリッキーなコンディションになる。そして25番目の女子選手が、ツリーとなり、5番あとの、現時点での世界選手権タイトルホルダーである中国のザン選手がツリーして、一時中断。テイクオフの風が一向に好転しない中、発達した積乱雲の下で雨が降っているのが確認され、じきにランディングまで来ることが予想され、昨日同用、近くのパブに一時避難することに。しばらくして、テイクオフの風が好転したので、競技を再開することに。この時間になるとサーマルはほぼ終わり、風も弱めで絶好のアクチュアリーコンディションになる。順調に進んだが、72番の選手がフライトした時点で、日没となり、東武選手の前で本日のラウンドは終了となる。5ラウンドでは、パッドスコアは岡、川村の2選手のみ。明日は女子2名に期待がかけられる。明日残りを済ませた後、何としてでも2本飛びたい。

7月30日 (DAY8)

今日は、昨日飛び残した選手を、なんとか、天気予報で出されている西寄りの風が入り込まないうちに、サブ会場で飛ばせるべく、ブリーフィングを早目で5:45にし、6時過ぎに移動を開始する。テイクオフにつくと、既に弱いながらフォローの風が入っている。8時まで待ったが、コンディションが好転せず、いったん宿舎に戻る。メイン会場のテイクオフは、ほぼ正面から平均7m/s、MAXで10m/s と飛べるコンディションではない。ウェイトिंगをした後、11:00のブリーフィングで、可能性を信じて、28番までの選手がテイクオフに上がることに。テイクオフに上がると、強めながら、飛べそうな風が正面から入っている。ダミーを出すと、特に荒れた様子もなく、前に出てゆく。ここから新しいラウンドが開始される。昨日途中まで終了した第5ラウンドは、同じランディングを使って継続できないことになり、ルール上、キャンセルとなる。昨日、良いスコアを出した選手にとっては残念な結果に。しかし、これで昨日ハーネスタッチで1000点を出した、山谷選手にとってはラッキーな結果となる。順調にテイクオフが進み、10番目の山谷選手もスタート。パッドを踏むが、同時接地と判断されパッドスコアではなく、一番遠いポイントを測っているためコンプレインを出す。結局、審判の判断に不一致があったとして、リジャンプとなる。また、24番目の岡選手は、前の選手に追いついてしまい、同時進入となったため、ターゲットを外しリジャンプに。コンディショ

ン的には狙いやすそうであったので、残念な結果となった。時折強さが変わる風速に惑わされて、パッドを外す選手も出始める。その中に地元チェコのトップパイロットのカミル選手がいた。彼は、昨日ゼロ点を出していただけに、無念さは計り知れない。35番目の、ミリチャが飛んだところで、雲底が下がりテイクオフがクローズに。しばらくウエイティングをするが好転せず、スケジュール的に、時間内に、全選手がフライトを完了できないと判断し、オーガナイザーは、ラウンドの終了宣告をする。その後、提出されていたプロテストに対するジュリーの採決がされ、4本成立で大会の幕を閉じることになる。少なくとも8本くらいは飛べるのではと期待していたが残念な結果となってしまった。日本の国別ランキングは、6位と前回と同じ結果となってしまった。

最終成績

総合1位 Anton SVOLJSAK(スロベニア)

2位 Xiaoqiang YANG(中国)

3位 Jaka GORENC(スロベニア)

4位 PAVLO MARINKOVIC(セルビア)

5位 Martin ONDRASEK(チェコ)

6位 Dede NISBAH(インドネシア)

14位 横井 清順

17位 岡 芳樹

35位 川村 眞

37位 山谷 武繁

48位 東武 瑞穂

65位 茂呂 可寿美

76位 古賀 光晴

女子1位 Marketa TOMASKOVA(チェコ)

2位 Milica MARINKOVIC(セルビア)

3位 Milica BICANIN(セルビア)

8位 東武 瑞穂

15位 茂呂 可寿美

国別1位 スロベニア

2位 セルビア

3位 中国

4位 インドネシア

5位 チェコ

6位 日本